

平成 28 年度 事業報告書

介 護 老 人 福 祉 施 設 ブエナビスタ

1. 基本方針

(1) 「生活の場」としての施設援助

施設の基本理念「誠実な心、優しい心、進取の心で利用者の生活に「安心」をもたらします」をケアの基本とし、職員間で共有、再確認しながら入所者・ご家族に対しサービスの提供を実施した。

(2) 個別ケアへの取り組み

新規入所された方に対して、これまで歩んでこられた生活歴やご本人・ご家族の意向に沿ったサービス計画書を作成、実施できるよう多職種共同にて取り組みを行った。施設プランの位置づけとしては以下の解決すべき課題に優先順位を設けた。

- (1) 生命に関すること
- (2) ご利用者・ご家族の要望
- (3) その他優先すべき解決課題

又、状態に変化（疾病、事故、褥瘡形成等）が見られた際、要介護度に変更があった際、入所者やご家族から希望があった際、期限が満了した際には担当者会を開催し検討した。

(3) 介護サービス向上に向けての取り組み

個別ケアの特色を活かし、施設理念である3つの心に沿ったケアサービスが発揮できるよう施設内研修を中心に取り組みを行った。施設内研修では、平成28年度職員全体会計画に基づき月2回（2部制）実施した。内容としてユニットケアの理解、事故防止、高齢者虐待・身体拘束廃止、災害対応等、項目別に担当者を設け実施した。

施設外研修では、ユニットリーダーが「ユニットリーダー研修」に参加し、ユニットケアに対する理解を深め、研修参加後は研修課題を通じて職員の意見聴取や取り組みの実施に繋げ、ユニット内の入所者に対してケアの展開を図る事ができた。

2. 介護方針

(1) 離床対策

ご本人のニーズやご家族の希望も踏まえた生活状況の把握に努め、その方に応じた生活リズムを尊重しつつ、基本的には朝・昼・夕の食事・おやつは共同生活室にて摂取して頂いた。身体上、ADL等の状況により座位がとりにくい方に対してもリクライニング式車椅子を活用する等し、離床時間を確保するように努めた。又、認知症によりご本人の判断が難しい方に対しても、日頃よりアセスメントを

実施し適切な離床時間確保に努めるようユニット単位で協議を行った。困難事例に関してはユニット会議を通じて現場職員の意見聴取、専門職の意見も踏まえ対応を行った。結果、食事以外の時間にユニット単位で余暇活動等を実施し参加して頂いた。余暇活動内容（塗り絵、カラオケ、折り紙、書道、読書等）

（2）認知症入所者への対応

施設内研修にてユニットリーダーが中心となり、テーマを「ユニットケアの理解」とし勉強会を開催した。内容として、ユニットケアを理解し、認知症入所者の個性や生活リズムに沿ったケアができるよう学んだ。

（3）身体拘束ゼロ・虐待ゼロの推進

身体拘束防止委員会、虐待防止委員会を中心に、施設内にて委員が資料作成し勉強会の開催を行った。勉強会では厚生労働省の身体拘束廃止に関する資料を基にグループワーク等を実施し、身体拘束廃止・虐待防止に向けての検討会を行った。又、現場で感じた拘束(言葉掛け等)を、施設全体会議やユニット会議で話し合い介護職員の資質向上に努めた。

（4）在宅復帰

平成 28 年度は在宅復帰された方は居なかったが、カンファレンス時などご家族やご本人の意見を聞きながら、6 ヶ月毎の担当者会を通じて在宅復帰が可能かを検討した。ご家族のニーズでご家族の近隣施設に移られる入所の方はいたが、在宅復帰に繋がる事例はなかった。

3. 生活援助方針

（1）食事

毎日の食事内容について、職員・入所者からの意見の聞き取りと、毎月の給食委員会では委託業者も交え検討した。食材では委託業者と協議し、出来る範囲で品質が良く、美味しいものに切り替えていった。常食・刻み・極刻み・ミキサー食(一部ソフト食導入)水分のトロミ等の基準をつくり、入所者の咀嚼・嚥下力に合わせた安全な食事が提供できるよう、率先的にとり進めた。

又、行事食は季節感を感じてもらえるよう季節の食材を使用提供したことで、好評を得ることが出来た。

介護面では入所者の残存機能を考慮し、ご自身で出来ることはやっていただけるように言葉を掛け促していった。ご自身では無理な方に対しては、摂取時の姿勢などに留意しながら、安全に食べていただいた。

（2）口腔ケア

ラムザ歯科の医師の指示のもと、歯科衛生士から指導を受けることで専門的なブ

ラッシングを行うことが出来た。口腔委員を中心に毎月、口腔ケア計画書、評価書を作成し、入所時と定例の変化のあった時には口腔の状態チェックを行った。原則として毎食後の口腔ケアを行い口腔内の清潔に務めることで、誤嚥性肺炎の予防にもなり罹患者は2名であった。

(3) レクリエーション・クラブ活動

全体行事として敬老会の開催をご家族参加にて開催した。会場は3階介護室と共有スペースを全面開放とし入所者とそのご家族を招き外部ボランティアの三味線の演奏を聴いて頂いた。その後はユニットに移動し各ユニットにて思考をこらした出し物や、手作りのカード等を作成配布し入所者・ご家族は大変喜ばれていた。食事に関しては、ご家族と共に食卓を囲み召し上がられ、食後には高知名物のお菓子を提供した。ユニットの取り組みとして、個人のニーズに合わせ近くのスーパーへの買い物外出や、認知症予防、機能訓練のため書道、カラオケ、塗り絵等も実施した。3月後半にはお花見見学を企画し、全ユニットの入所者に対し可能な範囲で参加して頂いた。結果、多くの方に参加して頂く事が出来、大変好評であった。初年度ということもあり、出来なかった地域のイベント等にも今後は積極的に参加していきたい。

(4) 排泄ケア

ユニットリーダーが中心となり排泄表の作成、他職員より入所者個人の排泄パターンの把握に努め、適切な時間交換に努めた。可能な範囲で紙パンツより布パンツにシフト出来るようご家族の協力を得ながら、紙パンツからボクサーパンツに変更しオムツ除去に努めた。勉強会では、排泄アドバイザーから困難事例のアドバイスを受け、技術スキルの向上に努めた。

(5) 入浴

週2回以上の入浴を基本に行った。個人のADLを把握し個浴、特浴のどちらが適切かを見極めケアに努めた。ユニットの馴染みの関係性を重視、個浴に関してはマンツーマンでの介助とし、ゆっくり浴槽に浸かれる体制をとり入浴して頂いた。特浴に関しては基本2名の介助者により負担軽減を図りつつ「ゆっくり」と浴槽に浸かれる時間の確保に努めた。結果「気持ちよかった、ここのお風呂はいい」等の発言も多く聞かれた。

(6) 個別機能訓練

機能訓練指導員が、入所者の身体状態に合わせた機能訓練計画書を一人一人個別作成し、目標・目的に沿って実施した。個別機能訓練実施曜日としては、1階＝月曜日（午前・午後）、2階＝月曜日（午前）・火曜日（午前）・金曜日（午後）、3階は月曜日（午前）・木曜日（午前）・金曜日（午後）、4階は月曜日（午前）・

金曜日（午後）に実施。個別機能訓練及び集団体操、月曜日から金曜日までのラジオ体操を実施し、日常生活での基本動作能力が現状よりも低下する事がないよう他職種との連携を持ちながら業務を遂行した。

（7）褥瘡予防ケア

入所時、退院時、3ヵ月毎にOHスケールにて褥瘡の危険度判定を行い、高リスクの入所者については褥瘡委員会にて除圧や栄養面等から予防策について検討を行い、ユニットにおける日々のケアの実施に繋げた。

又、褥瘡発生の際には協力病院と連携を図り、各ユニットの褥瘡委員、医務を中心として早期治療、早期治癒へのケア、処置、除圧を実施している。

29年度は褥瘡予防計画書を作成し、リスクに備える。

（8）事故発生防止

介護事故報告書提出件数は8件であった。定例事故防止検討会にて専門職を交え月1回の開催を実施した。ヒヤリハットリスク2、ヒヤリハットリスク1の件数を出し内容の分析を行った。再発防止策が不十分の場合は、入所者の現状を会議の中で再分析し再発防止策の変更を行った。事故発生時にはご家族への説明を迅速に行い、協力病院と連携を図り、早期受診を行う事で重篤化防止に努めた。

（9）ケアプラン

包括的自立支援プログラムを活用しケアプランを作成した。事前にご本人・ご家族の意向を聞き取り、担当者会参加を促しながらケアプラン作成に努めた。不参加の場合は仮プランを事前に説明し対応した。プランニーズでは施設として①生命に関すること②ご利用者・ご家族の意向③その他優先すべき解決課題と優先順位を設け作成にあたった。解決すべき課題の取り組みやその他状態に変化が見られた際には随時担当者会を開き、他職種協働のもとケアプランを作成した。尚、ご家族参加の担当者会議は、担当職員も出来るだけ出席出来る様に調整を行った。

4. 医療と看護

入所時に何らかの既往症や疾患を有している入所者が少しでも苦痛なく、安心して生活ができる様に、協力病院である西部総合病院との連携を密に健康管理に努めた。日々一番身近でケアを行っている介護職員の気づきを大切に、看護師は異常の早期発見、早期受診を心掛けている。また日頃から多職種との情報交換を行い、ご家族の思いにも寄り添える医療的な援助が出来る様努めている。

感染症はインフルエンザA型が2月中旬に蔓延し11名罹患があった。ノロウイルスについては0名であった。

5. 利用者の状況

平成 29 年 3 月 31 日現在

(1) 現状

		男	女	計
異動状況 H28.4.1 ～ H29.3.31	入所	24	71	95
	退所	6	13	19
年 齡 構 成 H29.3.31 現在	60～64	1	0	1
	65～69	0	1	1
	70～74	3	4	7
	75～79	1	7	8
	80～84	3	9	12
	85～89	4	17	21
	90以上	6	20	26
計				76

(2) 入退所の状況

	入所前の状況			入所者数 計	退居者の状況				退所者数 計	月末 在籍 者数
	在宅	病院	その他 (他施設から の転入等)		在宅 復帰	医療機関 入院	その他 (他施設へ の転出等)	死亡		
H28年 4月	12	5	5	22	0	0	0	0	0	22
5月	6	3	3	12	0	0	0	0	0	34
6月	2	3	3	8	0	0	1	0	1	41
7月	4	2	1	7	0	0	1	0	1	47
8月	1	1	1	3	0	0	0	3	3	47
9月	5	7	0	12	0	0	0	3	3	56
10月	2	3	0	5	0	1	0	0	1	60
11月	0	0	0	0	0	0	0	1	1	59
12月	4	3	3	10	0	2	0	3	5	64
H29年 1月	3	4	1	8	0	2	0	0	2	70
2月	1	2	0	3	0	0	0	0	0	73
3月	2	1	2	5	0	0	1	1	2	76
計				95					19	

(3) 利用者の生活状況〈平成29年3月31日現在〉

A 日常生活動作状況 (76人)

		人数	割合
移動	自立歩行	11	14
	一介付き添い	8	11
	車椅子	57	75
	計	76	100%
排泄	自立	12	16
	一部介助	29	38
	全介助	35	46
	計	76	100%
食事	自立	49	65
	一部介助	16	21
	全介助	11	14
	計	76	100%
入浴	自立	5	7
	一部介助	37	48
	全介助	34	45
	計	76	100%
整容	自立	24	32
	一部介助	29	38
	全介助	23	30
	計	76	100%
寝返り	自立	38	50
	一部介助	18	24
	全介助	20	26
	計	76	100%
着脱衣	自立	14	18
	一部介助	36	48
	全介助	26	34
	計	76	100%

B 面会者状況

回数	面会のあった利用者		
	男（人）	女（人）	計（人）
1	7	12	19
2～5	3	16	19
6～10	3	11	14
11～15	0	6	6
16～20	3	3	6
21～30	1	5	6
30以上	1	5	6
計	18	58	76

対象者：平成 29 年 3 月 31 日 在籍者

期 間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

(4) 外泊状況

外泊回数	男	女	計
1	0	6	6
2	1	1	2
3	0	0	0
4	0	0	0
5回以上	0	1	1
合計	1	8	9

対象者：平成 29 年 3 月 31 日在籍者

期 間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

(6) 特養入所者状況、ショートの利用者状況

【平成 28 年度利用者数の月別推移】

利用 者数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入所		347	856	1,089	1,345	1,377	1,572
ショート (空床)		0	0	0	0	0	0
合計		347	856	1,089	1,345	1,377	1,572

利用 者数	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均 利用率
入所		1,755	1,684	1,740	1,895	1,889	2,180	17,729	50.60%
ショート (空床)		0	0	0	0	0	0	0	0.00%
合計		1,755	1,684	1,740	1,895	1,889	2,180	17,729	50.60%

【平均利用率の年別推移】

年度	H28				
入所	50.60%				
ショート (空床)	0.0%				
合計	50.60%				

平成 28 年度行事実施報告

(備考)

月 1 回 *誕生日会

毎 週 *ユニット内にてカラオケ、塗り絵、書道

その他 レク

月	行事
4	
5	端午の節句
	母の日
6	父の日喫茶店
7	七夕
8	
9	敬老会
10	ハロウィン
11	
12	防災訓練
	クリスマス忘年会
	餅つき
1	新年会
2	節分
	バレンタイン
3	ひな祭り
	防災訓練